



# 株式会社田中化学研究所

2017年3月期 決算説明会  
2017年5月16日

## 目次

1. 2017年3月期 決算ハイライト
2. 2017年3月期 トピックス
3. 製品別販売数量推移
4. 主原料国際価格推移（\$/LBベース）
5. 住友化学に対して第三者割当増資
6. 資金の借入、コミットメントラインの  
設定及び借入金の返済について
7. 営業外収支および特別損益
8. キャッシュフロー計算書
9. 比較貸借対照表
10. 2018年3月期予想
11. 製品別販売数量推移予想
12. 2018年3月期業績予想の補足説明
13. 注意事項

# 1. 2017年3月期 決算ハイライト

(単位:百万円)

	2017/3期	増減	2016/3期
売上高	13,254	△2,011	15,266
営業利益	△406	△105	△301
経常利益	△654	△80	△574
当期純利益	△640	△953	312
EPS(円)	△33.33	△54.38	21.05
設備投資額	196	△337	533
減価償却費	807	△278	1,085
期末従業員数	184名	+9	175名

## 2. 2017年3月期のトピックス

### ○ 販売数量は前年比+5.3%に留まる

- ・リチウムイオン電池向け△5.1%(民生用途+0.2%、車載用途△14.6%)
- ・ニッケル水素電池向け+41.0%(民生用途+45.6%、車載用途+39.0%)

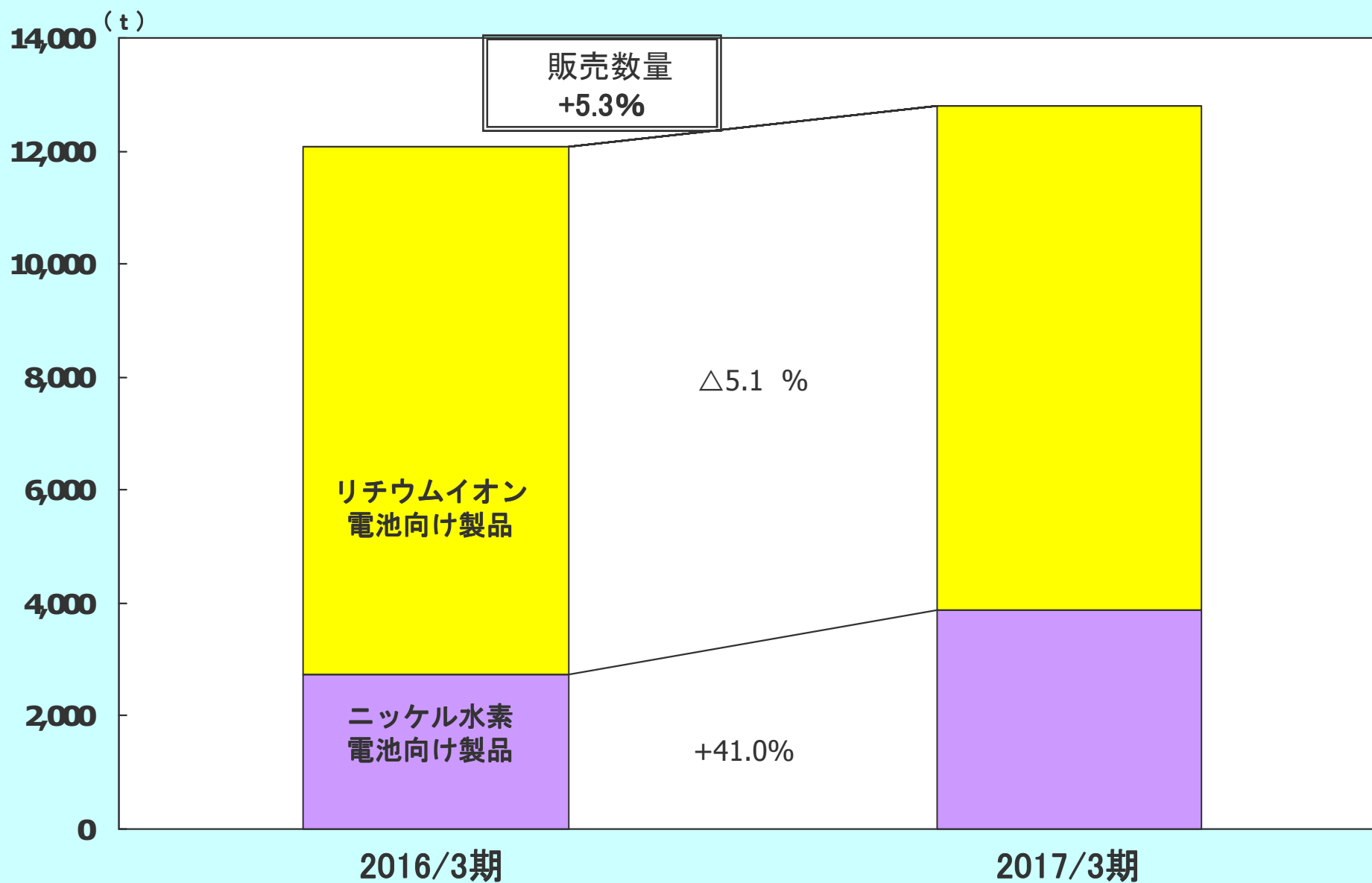
### ○ 主原料相場は回復基調

- ・コバルト相場は急激な上昇
- ・ニッケル相場は回復も円高により円建てでは限定的

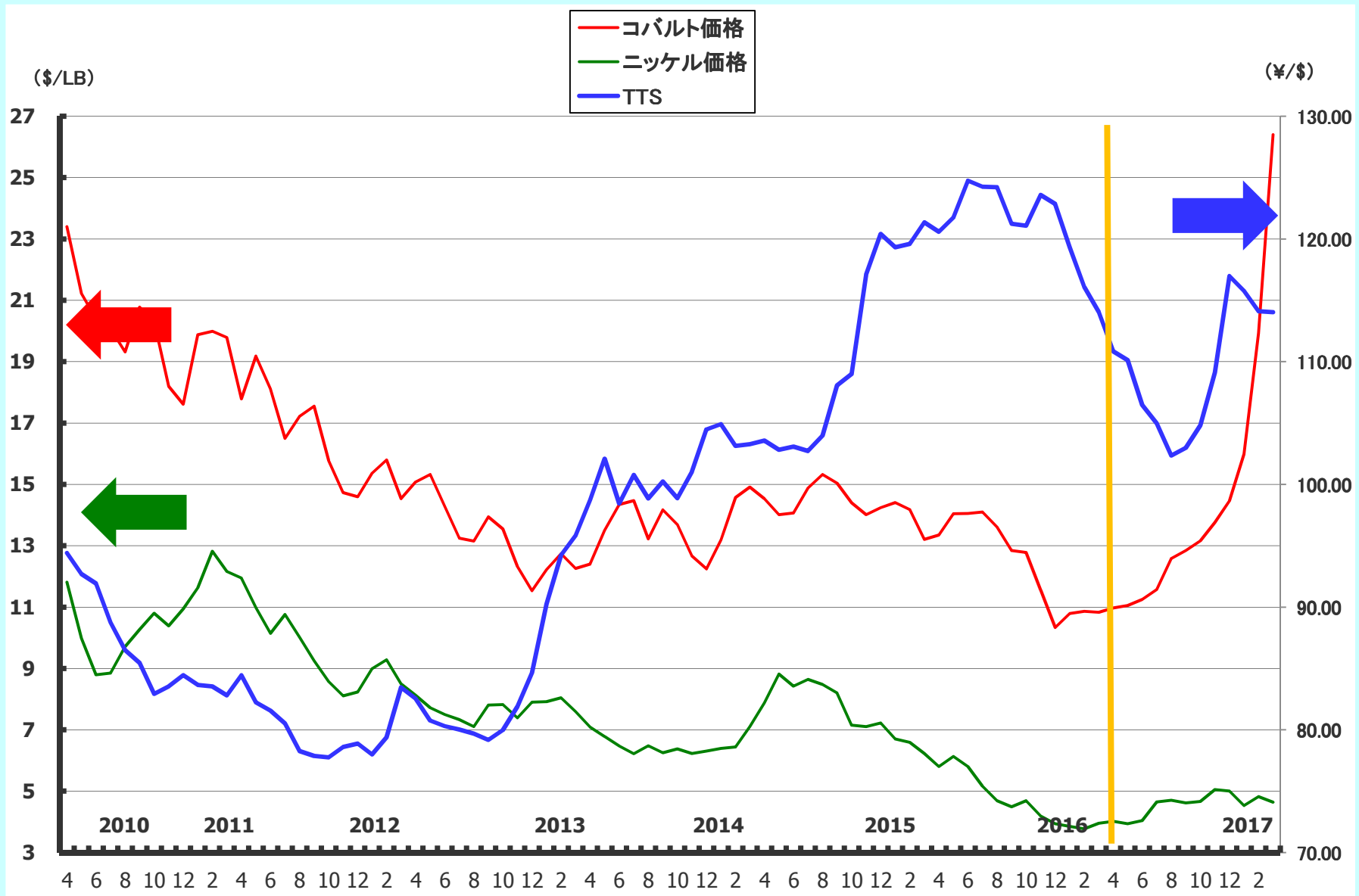
### ○ 住友化学の子会社化

- ・第三者割当増資による資本増強
- ・リファイナンス実施
  - ⇒ 「継続企業的前提に関する注記」は解消

### 3. 製品別販売数量推移



# 4. 主原料国際価格推移 (\$/LBベース)



# 5. 住友化学に対して第三者割当増資

## 1. 【背景】

成長が期待される二次電池市場の需要を取り込み、住友化学との共同開発品を事業化するにあたって、需要増加に見合う生産体制構築のための設備投資、販売力強化及び研究開発体制の一層の充実のためには資金手当てを含めた財務体質の健全化が必須であった。

## 2. 【内容】

2016年10月31日付で住友化学に対して10,500千株を新規発行。

住友化学の持株比率は14.81%から50.10%に増加し、当社親会社となった。

新株式発行により、当社が調達した資金は6,573百万円。

## 3. 【効果】

今後の設備投資資金の調達とともに住友化学からの役職員の派遣等を通じた人材交流や経営ノウハウの注入等により、技術、製造、販売、購買等の各分野で一層のシナジー効果を追求出来る体制となった。

## 6. 資金の借入、コミットメントラインの設定及び借入金金の返済について

### 1. 資金の借入

三菱東京UFJ銀行・三井住友銀行・福井銀行他より3,000百万円

借入実行日：2017年3月31日

借入満期日：2027年3月31日

### 2. コミットメントラインの設定

三菱東京UFJ銀行・三井住友銀行・福井銀行他より2,000百万円

契約開始日：2017年3月31日

### 3. 借入金金の返済

総額7,018百万円

返済日：2017年3月31日



## 7. 営業外収支および特別損益

(単位:百万円)

	2017/3期	増 減	2016/3期
営業外収支	△247	+24	△272
金融収支	△82	+20	△102
為替差損	△68	△7	△61
その他	△96	+12	△108
経常利益	△654	△80	△574
特別損益	+16	△892	+908
税引前当期純利益	△638	△972	+334
法人税等	2	△19	21
当期純利益	△640	△953	+312

# 8. キャッシュフロー計算書

(単位:百万円)

摘 要	2017/3期
<b>I. 営業活動によるキャッシュフロー</b>	
税引前当期純利益	△638
減価償却費	+807
運転資本増加による資金の減少	△411
未収消費税等の減少	+99
その他	△83
計 (A)	△226
<b>II. 投資活動によるキャッシュフロー</b>	
有形固定資産の取得	△328
その他	△0
計 (B)	△329
<b>フリーキャッシュフロー(A)+(B)</b>	<b>△555</b>
<b>III. 財務活動によるキャッシュフロー</b>	
長期借入金の返済による支出	△7,173
長期借入による収入	+2,961
株式の発行による収入	+6,514
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△130
計	+2,171
現預金等換算差額	+12
現預金等増減額	+1,628
期末現預金残高	4,521

# 9. 比較貸借対照表

(単位:百万円)

	2016/3期	2017/3期	増減		2016/3期	2017/3期	増減
流動資産	7,865	9,845	+1,979	流動負債	3,319	3,027	△292
現預金	2,893	1,521	△1,371	仕入債務	2,264	2,075	△188
売上債権	2,120	1,924	△195	借入金	309	300	△9
棚卸資産	2,538	2,957	+418	その他	746	651	△94
関係会社預け金	—	3,000	+3,000	固定負債	7,330	3,017	△4,312
その他	313	441	+127	借入金	6,864	2,700	△4,164
固定資産	4,599	3,953	△646	その他	465	317	△147
有形固定資産	4,471	3,819	△652	負債計	10,649	6,045	△4,604
機械装置他	3,195	2,627	△568	資本金	2,492	5,779	+3,286
土地	1,125	1,125	—	資本剰余金	—	3,286	+3,286
建設仮勘定	150	66	△83	利益剰余金	△685	△1,326	△640
無形固定資産	17	14	△2	自己株式	△2	△2	—
投資等	110	119	+8	評価・換算差額等	10	16	5
				(自己資本比率)	14.6%	56.2%	41.6%
				純資産計	1,815	7,753	+5,937
合計	12,465	13,798	+1,333	合計	12,465	13,798	+1,333

# 10. 2018年3月期予想

(単位:百万円)

	2018/3期予想	増減	2017/3期
売上高	18,000	+4,745	13,254
営業利益	250	+656	△406
経常利益	220	+874	△654
当期純利益	200	+840	△640
設備投資額	540	+343	196
減価償却費	586	△221	807

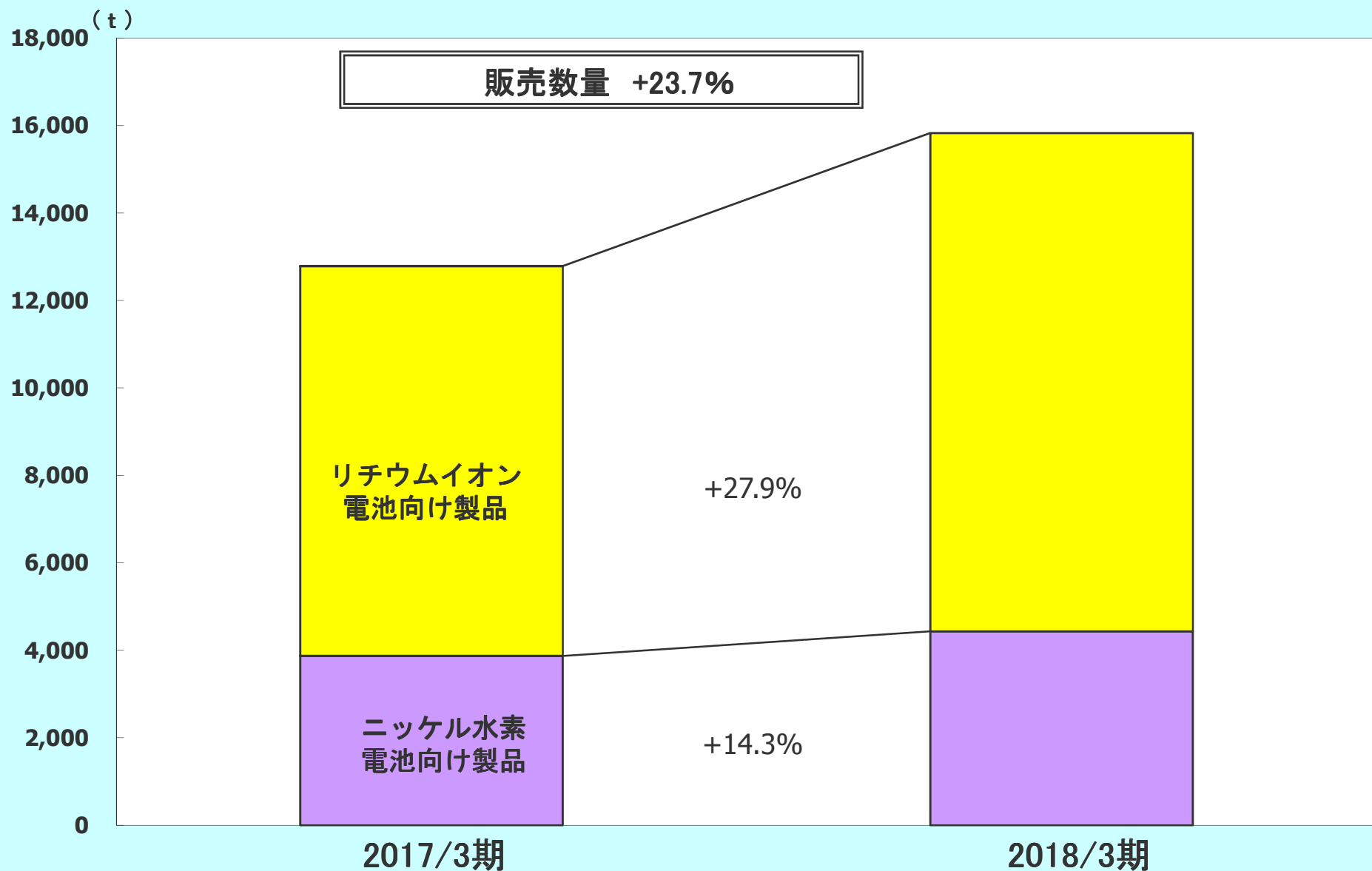
(注)

2018/3第1四半期より有形固定資産の減価償却の方法を定率法から定額法に変更しており、上記業績予想が当該変更による影響を含めて算定しております。

(5月12日公表ベース)

※業績予想につきましては、当社が現時点で入手可能な情報による判断、仮定及び確信に基づくものであり、今後の経済情勢、事業運営における様々な状況変化によって、実際の業績は見通しと異なる可能性があります。

# 1.1. 製品別販売数量推移予想



# 1 2. 2018年3月期業績予想の補足説明

1. 当期の業績予想には、ニッケル・コバルト等の主原料メタル価格の変動要因は織り込んでいません。
2. 数量面では前年比23.7%の増加を計画しております。環境対応車向け事業の拡大と民生向け新規顧客獲得や新規用途への展開を更に進めることにより、リチウムイオン電池向け材料トータルで前年比27.9%、ニッケル水素電池向け材料トータルで前年比14.3%の増加を見込んでおります。
3. 設備投資につきましては、540百万円を計画しております。また、減価償却費は586百万円となる見込みです。

業績予想につきましては、当社が現時点で入手可能な情報による判断、仮定及び確信に基づくものであり、今後の経済情勢、事業運営における様々な状況変化によって、実際の業績は見通しと異なる可能性があります。

## **(注意事項)**

本資料に掲載されている田中化学研究所の現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しです。これらの情報は現在入手可能な情報から得られた情報にもとづき算出したものであり、リスクや不確定な要因を含んでおります。実際の業績等に重大な影響を与えうる重要な要因としては、田中化学研究所の事業領域をとりまく経済情勢、市場における田中化学研究所の製品に対する需要動向、競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場において田中化学研究所が引き続き顧客に受け入れられる製品を提供できる能力、為替レートの変動などがあります。但し、業績に影響を与えうる要素はこれらに限定されるものではありません。